

演習課題2 根拠資料・データの検討

※ ここでは、認証評価の自己評価書の作成に当たって、根拠資料・データを収集している場面を想定している。以下の分析項目1から分析項目3について、認証評価機関が「自己評価実施要領」に示記載した【分析の視点】と【根拠資料・データ例】に加え、それに基づいて評価大学が現時点までに収集・作成した根拠資料・データを掲載したものである。

分析項目1 内部質保証が有効に機能しているか。

【分析の視点】

- ・内部質保証体制において、自己点検・評価の結果（自己点検・評価に基づいて受審した第三者評価の結果を含む）等を踏まえて決定された対応措置の実施計画について、成果、進捗、検討状況を確認する。
- ・すべてが検討中でないかぎり、内部質保証の体制は機能していると判断してよい。

【根拠資料・データ例】

- ・内部質保証体制において、自己点検・評価の結果（自己点検・評価に基づいて受審した第三者評価の結果を含む）等を踏まえて決定された対応措置の実施計画の進捗状況が確認できる資料

分析項目2 学生に対する経済面の援助が適切に行われているか。

【分析の視点】

- ・奨学金制度の整備状況と当該窓口の周知及び利用実績について確認する。
- ・入学料・授業料免除、奨学金（給付、貸与）、学生寄宿舍等、各大学固有の事情等に応じて、学生の経済面の援助が行われているかについて確認する。

【根拠資料・データ例】

- ・経済的支援の整備状況、利用実績一覧
- ・奨学金制度の整備状況と当該窓口の周知が確認できる資料
- ・日本学生支援機構奨学金等の利用実績が確認できる資料
- ・大学独自の奨学金制度等を有している場合は、その制度や利用実績が確認できる資料
- ・入学料、授業料免除等を実施している場合は、その基準や実施状況が確認できる資料
- ・学生寄宿舍を設置している場合は、その利用状況（料金体系を含む。）が確認できる資料
- ・上記のほか、経済面の援助の利用実績が確認できる資料

分析項目3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されているか。

【分析の視点】

- ・シラバスに、授業名、担当教員名、授業の目的・到達目標、授業形態、各回の授業内容、成績評価方法、成績評価基準、準備学習等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記載されており、学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものとして、全科目、全項目について記入されていることを確認する。
- ・芸術等の分野における個人指導による実技の授業等については、大学等の目的に則した方法によって、授業計画が示されていることを確認する。
- ・すべてのシラバスが、学生に対して、刊行物の配布・ウェブサイトへの掲載等の方法により周知を図っていることを確認する。
- ・授業形態（講義、演習、実験、実習等の組合せ・バランス）、学習指導法（少人数授業、対話・討論型授業、多様なメディアの活用、能力別授業の実施等）の工夫を積極的に行っている場合は、その状況についても確認する。

【根拠資料・データ例】

- ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
- ・授業形態、学習指導法の工夫を行っている場合は、その具体例を示す資料

現時点で収集・作成した分析項目 1 に係る資料・データ

- ・内部質保証体制において、自己点検・評価の結果（自己点検・評価に基づいて受審した第三者評価の結果を含む）等を踏まえて決定された対応措置の実施計画の進捗状況が確認できる資料

資料 1-1 計画等の進捗状況一覧（抜粋）

改善・向上が必要と確認された事項		対応計画	計画の実施主体	進捗状況・成果等
年月	内容			
2014 年 8 月	工学部の数学科目で、学生から講義内で問題を解く時間が欲しいという声が毎年度挙がっている（各学期の授業評価アンケート）		工学部	
2014 年 3 月	成績評価に対する異議申立制度がない （大学機関別認証評価）	制度を導入する	全学教務委員会	教務専門委員会での制度設計を検討中
2014 年 3 月	シラバスの記載内容に精粗がある （大学機関別認証評価）	・ガイドラインの作成 ・シラバス登録システムの改修	全学教務委員会	2018 年 9 月に「シラバスガイドライン」を作成した。
2016 年 4 月	ドイツ語担当教員が不足している。 （教養教育に係る自己点検・評価）	ドイツ語担当教員の採用 第二外国語担当の教授ポストを IR 担当准教授又は講師ポストに振替	教養教育委員会 全学教員人事検討委員会	全学教員人事検討委員会に要請中。 2019 年 10 月に IR 担当准教授又は講師の公募開始。
2018 年 12 月	図書館を 24 時間開放にしてほしい。（平成 30 年度学生との懇談会）			
2019 年 6 月	ウェブサイト「評価大学教員総覧」に掲載されていない教員がいる。また、掲載されている教員について、記載されている研究業績が少ないが、研究活動を行っているのか。（有識者懇談会）			

現時点で収集・作成した分析項目2に係る資料・データ

・経済的支援の整備状況、利用実績一覧

資料2-1 経済的支援の整備状況、利用実績一覧

(回答者：学生課)

支援内容	担当組織	根拠規定	配置人員	支援実績	財源
奨学金	学生課	各奨学金の要項等	4人	723件	日本学生支援機構、自治体、民間団体、寄附金
入学料免除					
授業料免除					
寄宿舎	学生課	評価大学学生寮規則	2人	116人	自己資金

(回答者：教務課)

支援内容	担当組織	根拠規定	配置人員	支援実績	財源
入学料免除	教務課	評価大学入学料免除規程	2人	21件	自己資金
授業料免除	教務課	評価大学授業料免除規程	2人	206件	自己資金

(回答者：文学部)

支援内容	担当組織	根拠規定	配置人員	支援実績	財源
奨学金	文学部事務室	各奨学金の要項等	1人	132件	日本学生支援機構等
入学料免除	文学部事務室	評価大学入学料免除規程	1人	4件	
授業料免除	文学部事務室	評価大学授業料免除規程	1人	37件	
寄宿舎	全学				

(回答者：経済学部)

支援内容	担当組織	根拠規定	配置人員	支援実績	財源
奨学金	経済学部事務室	各奨学金の要項等	1人	203件	日本学生支援機構、自治体など
入学料免除	経済学部事務室	評価大学入学料免除規程	1人	7件	自己資金
授業料免除	経済学部事務室	評価大学授業料免除規程	1人	63件	自己資金
寄宿舎	学生課?	?	?人	32人	?

(回答者：経営学部)

支援内容	担当組織	根拠規定	配置人員	支援実績	財源
奨学金	経営学部事務室	各奨学金の要項等	1人	212件	日本学生支援機構、寄附金
入学料免除	経営学部事務室	評価大学入学料免除規程	1人	5件	自己資金
授業料免除	経営学部事務室	評価大学授業料免除規程	1人	56件	自己資金

(回答者：工学部)

支援内容	担当組織	根拠規定	配置人員	支援実績	財源
奨学金	工学部事務室	各奨学金の要項等	1人	178件	日本学生支援機構ほか
入学料免除	工学部事務室	評価大学入学料免除規程	1人	21件	自己資金
授業料免除	工学部事務室	評価大学授業料免除規程	1人	56件	自己資金
寄宿舎					

・奨学金制度の整備状況と当該窓口の周知が確認できる資料

資料 2-2 日本学生支援機構奨学金の募集ポスター

日本学生支援機構奨学金 平成30年度在学採用募集

平成30年度に在学し、新規に日本学生支援機構奨学金の貸与を希望する方について、下記のとおり募集します。(※「第一種奨学金」や「併用貸与」への移行希望者を含む。)

募集の詳細は、平成30年3月下旬に掲示でお知らせします。

- 案内・申請書類配付期間
平成30年3月30日(金)から(予定)
- 申請書類配付場所
学生課奨学金係
(第1キャンパス A棟 1階)

● 奨学金の種類・貸与月額等

区分	第一種(無利子) (注1)	第二種(有利子)	入学時特別増額 (有利子)(注2)
自宅通学者	<u>20,000円</u> 、30,000円、45,000円	2~12万円(1万円単位)から選択	10、20、30、40、50万円から選択
自宅外通学者	<u>20,000円</u> 、30,000円、 <u>40,000円</u> 、51,000円		

注1) 下線付きの月額は平成30年度入学者のみ選択可能です。

注2) 入学時特別増額貸与(有利子)は入学時にのみ申し込むことができます。ただし単独での申し込みはできません。

※採用された場合、奨学金の初回振込は7月11日(予定)です。

※現在日本学生支援機構奨学金の貸与を受けている人は、新規に申し込む必要はありません。(変更・二種から一種への移行希望者は除きます。)

- ・日本学生支援機構奨学金等の利用実績が確認できる資料
- ・大学独自の奨学金制度等を有している場合は、その制度や利用実績が確認できる資料

資料 2-3 各種奨学金の利用実績 (平成 28 年度実績に基づき作成)

名称	学内・学外の別	給付・貸与の別	支給学生数	対象学生数に対する比率	支給総額
日本学生支援機構奨学金	学外	貸与	654 人	21.0%	313,920 千円
評価大学特待生奨学金	学内	給付	16 人	0.5%	8,000 千円
評価大学留学生奨学金	学内	給付	5 人	7.1%	5,000 千円
自治体・民間団体等の奨学金	学外	給付・貸与	47 人	1.5%	19,740 千円

- ・入学料、授業料免除等を実施している場合は、その基準や実施状況が確認できる資料

資料 2-4 特待生の人数の推移

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
日本人向け入試 (推薦・一般)	15	15	16	16	16	16
私費外国人 特別選抜	5	5	4	5	6	5

- ・学生寄宿舎を設置している場合は、その利用状況(料金体系を含む。)が確認できる資料

資料 2-5 学生寮の概要

寮名	居室	室数	在寮期間	寄宿料
大学寮(男子・女子)	2 人部屋	50 室	4 年	8,000 円/月
女子寮	1 人部屋	50 室	在学期間	18,000 円/月

- ・上記のほか、経済面の援助の利用実績が確認できる資料
該当なし

現時点で収集・作成した分析項目3に係る資料・データ

・シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料

資料3-1 評価大学シラバスとその例

<http://www.hyoka-university.ac.jp/syllabus/>

(1) 講義科目のシラバス例

講義番号	HU19H3002
授業名	日本古代史
担当教員名	奥田 登波子
学期・時限	第1学期 月曜2限
履修学部・年次	人文学部 2年次以上
単位数	2
授業の目的	日本古代史の主要トピックを解説する。
授業形態	講義
授業計画	1 邪馬台国から古墳の時代へ 2 倭の大王と地方豪族 3 蘇我氏とヤマト王権 4 飛鳥・藤原の時代と東アジア 5 平城京の実像 6 奈良時代の争乱 7 地方官衙と地方豪族 8 遣唐使と天平文化 9 平安遷都と対蝦夷戦争 10 平安京の成熟と都市王権の展開 11 摂関政治の実像 12 国風文化と唐物の世界 13 受領と地方社会 14 平将門・藤原純友の乱の再検討 15 平泉と奥州藤原氏
成績評価方法	試験、講義後レポート、出席状況を総合的に評価する。
教科書・参考文献	佐藤 信編「古代史講義」ちくま新書
教員からのメッセージ	私は「おくととなみこ」です。正しく呼ばれなくて困っています。

(2) 演習科目のシラバス例

講義番号	HU19E5321
授業名	ゼミナール I
担当教員名	中港 拓雄
学期・時限	第 1 学期 火曜 3, 4 限
履修学部・年次	経済学部 3 年
単位数	2
授業の目的	貨幣経済に関する基礎的文献を輪読し、貨幣経済の専門的知識を獲得するとともに、専門分野に関する説明能力やディスカッション能力を身につける。
授業形態	文献の内容をレジュメにまとめて発表し、質疑応答を行う。
授業計画	文献の内容をレジュメにまとめて発表し、質疑応答を行う。
成績評価方法	
教科書・参考文献	
教員からのメッセージ	無断欠席、遅刻、アルバイトやサークルとのダブルブッキングは認めない。ゼミナール中のケータイ・スマホ・イヤホン装着・私語・内職・居眠り・飲食・騒音発生行為・徘徊・無断退席は厳禁。

(3) 実験科目のシラバス例

講義番号	HU19T7210
授業名	電気工学実験
担当教員名	大湊 卓也
学期・時限	第 1 学期 水曜 4, 5 限
履修学部・年次	工学部
単位数	2
授業の目的	
授業形態	実験
授業計画	グループで電気工学に関する実験を行う。 第 1 ～ 4 回：実験 (1) 第 5 ～ 8 回：実験 (2) 第 9 ～ 12 回：実験 (3)
成績評価方法	出席 50%、実験レポート 50% (提出の遅れは減点する。)
教科書・参考文献	評価大学工学部電気工学講座編「電気工学実験」 (最初の時間に販売しますので、3,000 円をご用意ください。)
教員からのメッセージ	

資料3-2 評価大学シラバス作成の手引き

項目	記載上の留意点
授業名・担当教員名	教務課で入力したが、オムニバス科目については、代表教員名のみ入力しているので、他の担当教員名をすべて入力すること。
授業の目的	授業の目的やねらいを記入すること。
授業形態	講義、演習、実習などを記入すること。
授業計画	各回の授業内容を記入すること。
成績評価方法	成績評価の方法と評価基準を記入すること。
教科書・参考文献	教科書や参考文献の著者と題名を記入すること。
教員からのメッセージ	履修を考えている学生に対する思いなどを自由に記入すること (記載任意)。

・授業形態、学習指導法の工夫を行っている場合は、その具体例を示す資料

資料3-3 工学部における授業形態、学習指導法の工夫例

eラーニング	「技術者英語」で実施している。
アクティブ・ラーニング	「研究開発実習」で実施している。
リメディアル教育	数学、物理、化学、英語で実施している。
ポートフォリオ	全学のシステムを利用している。
自習スペース	従来の101講義室を自習スペース(30席)に改装し、8:00から18:00の間、学生は自習等で自由に利用できる。
優秀教員賞	授業評価アンケートで最も評価の高かった教員に学部長が表彰する。